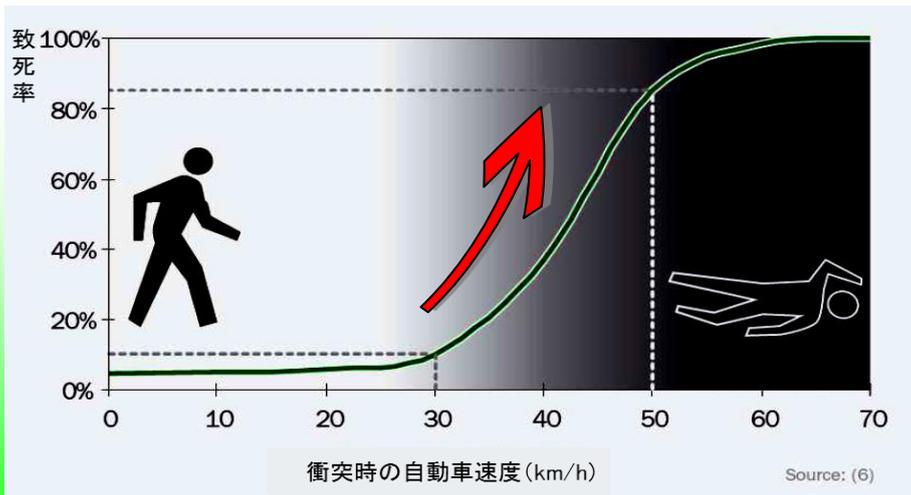


走行速度と交通事故等との関係

1 危険認知速度の上昇と致死率の変化について

- ・ 対歩行者事故では、衝突時の速度が30km/hを超えると、歩行者の致死率が大幅に上昇します。自動車のスピードが上がるとこの他にも、
 - ・ 停止距離が伸びて、衝突の回避が困難になります。
 - ・ 運転時の視野が狭まり、歩行者が気づきにくくなります。

➡ 速度規制を守りましょう。低速度であれば、事故にあっても助かる命があります。

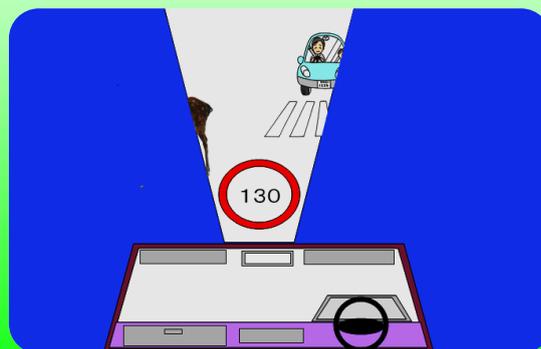


※ Speed management—a road safety manual for decision-makers and practitioners (2008) より

2 走行速度と視覚能力の変化について

- ・ 運転に必要な情報の90%以上が視覚に依存すると言われています。
- ・ 速度が上昇するにつれて、ドライバーの視野が狭小化します。
(例えば、40km/hの場合・視野100度、130km/hの場合・視野30度)

➡ このようなデータからも、走行速度を落とすことで重大交通事故の未然防止が図られると考えられることから、規制速度の遵守が交通事故抑止には重要になります。



※ Speed management (2006) より